

## 「なぜ安藤議員が選挙に出ないことになったのですか？」

令和3年6月30日

### ●皆さんからの質問

なぜ安藤議員が選挙に出ないことになったのですか？

### ●西田昌司の答え

今回の件については安藤さんから直接皆さま方に説明していただくべきではありますが、私が話せる範囲でお話します。

安藤さんは今年の3月24日に「実は、私も離婚調停中です。担当弁護士とともに適切に進めてまいります。」とツイートしましたが、このことを知って私はびっくりしました。と言うのも、このツイートの数日前に私は安藤さんに会っていきまして「今回の選挙戦、しっかりと勝つためには奥さんに応援に来てもらわなければ駄目だよ」とアドバイスしていきまして、それに対して安藤さんは「わかりました。ちょっと考えます」と返していきましてので、まさか出し抜けにツイートされるとは思ってもいかなかったのです。当然のことながら、私は安藤さんに対して不信感を抱きました。

4年前の選挙の時、私は安藤さんに「一度、支援者の皆さんの前に奥さんを連れてきて挨拶してもらったら？誰もあなたの奥さんを知らないというのはちょっとおかしいんじゃないの」と軽くたしなめましてところ、「私の家内は週に人口透析を3回していて、体が弱いものですからそうはいかないのです」との返答でした。これを聞いて不憫に思った私は、「そんな事情であれば、奥さんの代わりに皆で応援していこうよ」と支援者の皆さんに発破を掛けまして、皆が燃えてくれました。その結果、安藤さんは（比例復活ではなく）選挙区での当選が叶ったのです。

今度の総選挙は、コロナ禍の中で菅内閣の支持率が下がっているタイミングで行われますし、4年前よりももっと厳しい選挙になることが予想されます。安藤さんの奥さんを選挙活動に連れ出せない事情はわかりますが、それでも今の状況を考えると一度は奥さんに来てもらうべきと思ったがゆえの安藤さんへのアドバイスでしたが、そのリアクションがあのでツイートだったのです。ツイート後、私は安藤さんに会って「先日話した時はそんな話、全くしていないじゃないか。何であの時に言わなかったの」と質しましたが、安藤さんは「すみません」と言うばかりでした。

あのような形で離婚調停中であることを公にすれば「裏に何かあるのでは」と一般的には捉えられてしまうでしょう。つまり、妻子のある身で他の女性と関係を持ってしまえば不倫ということになりますが、今の奥さんとは別れる話をしているので不倫にはならない、といった具合のアリバイ作りをしているのではないか、という疑いです。そして実際に、地元の有権者の方々から特性の女性の名前が出てきたのです。

その後、地元の議員が集まって安藤さんに説明を求めましたが、安藤さんは「そういう事実はありません」ときっぱりと否定されます。しかし、具体的な話があちこちから聞こえていましたし、安藤さんの言葉だけでは信用できませんので、その女性とは何もない旨の一筆を<sup>したた</sup>認めてほしいと申し上げたところ、安藤さんはその一筆が書けないと言うのです。

何故書けないのかと質すと「書いてしまったらその人に迷惑がかかるし、逆に認めたことになってしまう」との返答なのですが、こちらは安藤さんのためにもはっきりとさせたいのですし、けじめをつけるためにも書いてもらいたかったのです。しかし、絶対に書けないと一歩も引きません。

また、その女性との将来の結婚の可能性について質しても、完全否定することはせずに「先のことは誰もわかりません」との返答でしたし、結婚の可能性の否定の一筆をも書けないとごねられましたが、これはある意味、不倫を認めているのも同然です。これには我々も驚きましたし、そのような状況

では選挙応援できない旨を伝えたところ「それでは次の選挙には出馬はしません」と返すものですから、呆れ返ってしまいました。

皆さん方に支援していただいて国会議員となったからには、まずはその議席を守ることが責務というものです。自らの潔白を証明するための署名を拒絶するに留まらずどうしたら不出馬という結末となるのか、全く理解できませんが、このようなやりとりを実は数か月間にわたってやっていたのです。

今度の選挙は安藤さんを立てて闘うつもりだった我々も、（安藤さん自身のはっきりとさせない）このような状況ではマスコミに騒ぎ立てられてまともな選挙にもならないでしょうから、安藤さんに自民党京都府第六選挙区支部長の座を降りていただいて、安藤さんに代わるしっかりとした候補者を今選定中です。

今回の件で我々が痛切に感じたのは、公募の危うさです。安藤さんは公募で選ばれましたし、以前に世間を騒がして議員辞職した宮崎謙介さんも公募でした。お二人とも立派な経歴の持主でしたが、様々な問題を起こして結局は辞める結果となっています。

一時、地盤・看板・鞆の三バンがなくても選挙ができるとの触れ込みで自民党でも公募による議員がたくさん誕生しました。いわゆる魔の三回生と言われる皆さんの多くが公募ですが、経歴よりも人格で選ばなければなりませんし、そこをしっかりと見抜くためには地元でしっかりと活動している地元出身者が望ましいのです。

安藤さんがなぜ政界から身を退くのか、私は未だによくわかりません。安藤さんには、説明責任をしっかりと果たしていただきたく思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>